令和５年度第２回千代田区生物多様性推進会議　議事要旨

（開催要領）

1. 開催日時
   令和５年 11 月 17 日（金）14 時 00 分～16 時 15 分
2. 開催場所・方法
   千代田会館　10 階　研修室　※WEB 会議と会場の併用
3. 出席委員（10 名）
   亀山委員（座長）、加藤委員（副座長）、須田委員、城委員、竹内委員、大井委員、坂口委員、積田委員、青山委員、印出井委員
4. 欠席委員（2 名）
   渡邉委員、森川委員
5. 事務局及び関係者（７名）
   山崎環境政策課長、松下企画調査係長、山浦事業推進担当係長、落合エネルギー対策係長、株式会社地域環境計画（３名）

（次第）

1. 開会
2. 議題
   （１）ちよだ生物多様性推進プランの改定について
   ・ 素案の確認
   （２） 千代田区生きものさがし 2023 夏編の結果について
3. 今後のスケジュール
4. 閉会

（配付資料）

- 次第
- 委員名簿
- （資料１）令和５年度第１回生物多様性推進会議 委員意見及び対応方針案
- （資料２）ちよだ生物多様性推進プラン（素案）
- （資料３）ちよだ生物多様性推進プラン概要版（案）
- （資料４）千代田区生きものさがし 2023 夏編の結果について
- （参考：資料５）令和５年度第１回千代田区生物多様性推進会議 議事要旨

（議事要旨）

1.　開会

2.　議事

（1）ちよだ生物多様性推進プランの改定について

①令和5年度第1回生物多様性推進会議 委員意見及び対応方針案

（意見・質問なし）

②ちよだ生物多様性推進プラン（素案）

＜亀山委員＞

・第 1 章のタイトル「新しい“ちよだ生物多様性推進プラン”が目指す社会」は戦略全体にかかるようなタイトルだが、内容は背景や現状を記載している。プランの構成からしても第1章のタイトルは“背景”や“現状”といったことにしたほうがよいのではないか。

＜加藤委員＞

・タイトルについては亀山委員の発言のとおり修正をお願いしたい。

・第 2 章までが千代田区の生物多様性の現状を記載していて、それが行動計画につながっていくのだろうが、第 2 章と第 3 章の間のつなぎを考えていただきたい。目標と戦略の間の関係性がわかるようにしたほうが良い。

・将来像を 4 つのエリアに分けているが（31 ページエリア別の将来像）、「皇居～内濠エリア」「神保町・神田公園・万世橋・和泉橋エリア」「麹町・番町・飯田橋・富士見エリア」の区分は自然でよいと思うが、「大手町・丸の内・有楽町・永田町エリア」をよく見てみると、東と西で状況が違うのではないだろうか。このエリアを一体的なものとして扱うのがよいか、東西に分けるべきか、考えた方が良い。

＜須田委員＞

・目次は確かに指摘されることだろう。

・「エリア別の将来像」の「②神保町・神田公園・万世橋・和泉橋エリア」のページ（34ページ）の下段に写真とともに“屋上・壁面の緑化など、緑化の工夫がまち中に広がっています”と記載されており、緑化自体は良いと思うが、壁面緑化は樹種が限られ、生物多様性に寄与するものは途上にあるので、生物多様性に考慮した緑化の写真、たとえば屋上緑化などの写真に置き換えたほうが良い。

・「2050 年千代田区の将来像」（32 ページ）について、右上にある“アゲハチョウ”と書かれている絵が“クロアゲハ”に見えるので、“クロアゲハ”に種名の記載を変えたほうがよいだろう。クロアゲハは都市では希少な生物であるが、区の環境からもクロアゲハにしたほうが適している。

＜加藤委員＞
・「2050 年千代田区の将来像」（32 ページ）に描かれているヒメアマツバメは本来、南の方から分布を広げてきている種である。一方で、生物多様性という観点で心配しているのは、ツバメが確認されなくなってきているということ。都市ではツバメが食べることができる昆虫類が減ってきているといったデータも示されてきている。ヒメアマツバメではなくツバメが普通に飛び交っている姿を描いてはどうか。

＜亀山委員＞
・千代田区では、以前、ツバメの巣の調査をやっていたような記憶がある。調査結果では、結構いろいろなところに巣が確認されていたので、割といるものだと思っていた。
・一つの文章が非常に長いので、主語と述語の関係がわかりにくい。もう少し短く切っていった方がよいだろう。たとえば 7 ページ（１）①のタイトルは“千代田区の生物多様性の保全の核である皇居の豊かな生態系とそれをつなぐ生態系ネットワーク”とあるが、長い。“皇居の豊かな生態系とそれをつなぐ生態系ネットワーク”として、前半の部分を下の説明に入れればよい。また同じページの 2 段落目の“一方で・・・”から始まる文章も主語と述語の関係がわかりにくい。こういった文章がところどころにあり、見直しが必要である。8 ページ“②江戸時代からの歴史的遺構に由来する緑地・水辺、限られた自然地形上に残存する樹林環境”のタイトルも短く簡潔な表現にし、あまり考え過ぎないですらっとわかるような文章にしたほうが全体的に読みやすい。

＜亀山委員＞
・5 ページ目の図 1-4「東京都生物多様性地域戦略」の概要の図を入れる意図はなにか。必要な図かどうか再考した方が良い。

＜事務局＞
・国、都の戦略と整合性をとっていくということを示さなければならない、という意図であるが、ただ、これだけのボリュームも使って示すこと、また字も小さくなってしまうし、簡略化するなど、わかりやすい見え方に工夫したい。文章の直し方も見直したい。

＜亀山委員＞
・「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査）」（13 ページから）と、その前の「（１）千代田区の自然」だが、どちらも自然環境のことが書いてある。一緒にはできないだろうか。読み手としては、7 ページの代表的な豊かな環境があって、13 ページ目から個別の内容と読み取れるが分ける必要がどこにあるか。

＜事務局＞
・「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査）」（13 ページから）は個別の調査のことを記載しており、それをまとめて入れている。おっしゃるとおり、前半は全体的な話、一般的に言われているところであり、内容が重なっているところもあるというのはご指摘の通りだと思う。

＜亀山委員＞
・「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査）」（13 ページから）が詳細に調査したことを示していることはわかるが、「（１）千代田区の自然」も調査をした結果が含まれているので、分けなくてよい。

＜事務局＞
・項目別に分けたものを載せるというよりは、全体的な現状をまとめたほうがよいか。

＜亀山委員＞
・まとめるのはよいと思うが、分かれていてもよい。

＜事務局＞
・うまく融合してみる。

＜印出井委員＞
・生態系の量や質を深堀して記載した部分が「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査）」（13 ページから）である。以前は資料編に分けていたが、流れの中で、概略の詳細として入れこんだので、おっしゃっている通りということだと思う。資料編とするのか、どうするか考えたい。

＜積田委員＞
・「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査）」（13 ページから）の内容が、他の団体が調査した結果を載せたものだとするならば、これを資料編に移すということでもよいのではないか。資料編に載せるよりも、ここに置いた方が効果的というのであれば、それに賛同する。
・目次について、確かに第１章のタイトルの文章は長い。目次を直すのであれば、“新しい生物多様性推進プランが目指す社会”を、“ちよだが目指す社会”にするなど、もっと短くするのもよいだろう。“推進プラン”の文言を繰り返して使用する必要性はあるだろうか。強調したいということであるならば、このままでよい。

＜事務局＞
・第 1 章のタイトルの名称を変え、亀山委員に相談させていただきながら、決めていきたい。修正でき次第、皆様に報告する。

＜亀山委員＞
・「（２）千代田区の生きものたち（自然環境調査)」（13 ページから）は、今回のプランを改定するための調査報告なので、一緒にしたほうがよいと考えた。
・25 ページにある写真 1-11 の“下段でのアダプト活動”について、“アダプト”ではなくて、“アドプト”だと思う。

＜印出井委員＞
・道路公園課ではアダプトが定着している。生物多様性での市民参加といった場合には違うのか調査してみる。

＜青山委員＞
・2 ページ目の図 1-1 で生態系サービスについて説明されており、千代田区ならではのサービスも記載されているが、気候緩和も区ならではの例としてよいのではないか。皇居の緑がヒートアイランドに寄与している、といったことを目出し的に書いてもよいのではないか。
・4 ページ目の文章の最後の段落、下から 4 行目に“官民連携によって自然災害への自然の機能を活用した対策”とあるが、自然災害だけではないので“自然災害など”と記載してほしい。
・図 1-4「東京都生物多様性地域戦略」の概要（5 ページ）の図について、画質が粗いが、必要があれば都よりオリジナルデータを提供するので申し出てほしい。
・「2.1 ちよだ生物多様性推進プランの位置づけと改定の方向性」（28 ページ）で「東京都生物多様性地域戦略」が上位計画として書かれているが、それが正しいのか。東京都では「生物多様性国家戦略」を上位計画とは書いておらず、あくまで基本法に基づいて自治体が定めるということとしている。表現を工夫し、事務局の説明にもあったように、国・都と整合を取っているというような書き方がよいだろう。

＜亀山委員＞
・「2050 年将来像」「2030 年目標」の文章が長く、内容が伝わりにくい。

＜加藤委員＞
・書き方としてこのように目標と将来像を示す形があってもよいと思うが、その意図が伝わらないと意味がない。むしろ目標と戦略の関係性が明確に示されていることがより大切である。

＜須田委員＞
・たびたび生物多様性保全や自然再生事業などでは目標や将来像を示すことがあるが、完結に一文で示すということがポイントである。たとえば「2050 年将来像」であれば、“生物多様性を基盤とした自然共生の先進都市となっている”といったように一つの大事なキーワードを取り上げて完結に示し、他は説明に書けばよいのではないだろうか。

＜亀山先生＞
・区として区民に説明する時などにもっと簡潔に伝わるように言うことが大事だと思う。

＜印出井委員＞
・たとえば、「東京都生物多様性地域戦略」の場合では 2050 年の東京の将来像を“自然と共生する豊かな社会の実現”と一言であり、2030 年目標はそれぞれの要素を記載しているということである。都と区の違いを考えると都心性であり、“自然と共生する豊かな都心の実現”という表現にもできるとは思う。ご指摘のあった要素も踏まえながら、「東京都生物多様性地域戦略」の目標とも整合して検討したい。「2030 年目標」は千代田区としてのネイチャーポジティブ実現の姿を示すものであり、なかなか表現するのは難しいかもしれない。「2030 年目標」は一言で言い切れない部分もある。千代田区ならではのネイチャーポジティブの実現をどう表現するか相談させていただきたい。
・現行のプランでは「2020 年目標」を掲げているが、別途計画期間を記載していない。計画期間の項目が無くても違和感がないか、ご助言をいただきたい。

＜亀山委員＞
・一般的には計画期間があり、見直しをいつ行うかということが書かれていることが普通だと思う。

＜印出井委員＞
・しつらえは 2030 年までの計画であるというようなことを示しているが、しっかり計画期間として決めてはいない。計画期間を定めることでいつになったら見直しが必要になるかが明確にはなる。

＜事務局＞
・現行のプランでも特に期間を示していない。2020 年が目標となっているが、COP15 や「生物多様性国家戦略」の策定の遅れなどの背景がいろいろあって、それまでのプランというように話が進んでいるのだろうと、事務局としてとらえている。

＜印出井委員＞
・計画期間を入れても問題ないか。

＜事務局＞
・問題ない。

＜青山委員＞
・「東京都生物多様性地域戦略」は計画期間を記載している。「生物多様性地域戦略策定の手引き」（環境省）を確認いただければと思う。

＜印出井委員＞
・「生物多様性地域戦略策定の手引き」（環境省）を確認して、計画期間を入れた方がよいと考えた。実務的にも忘れずに次の見直しができると思う。

＜坂口委員＞
・将来目標について、2050 年は直近ではなく、夢を語れるところだと思う。もう少し、一歩踏み込む、チャレンジした方がよいという要素を展開してもよいのではないか。区民の立場でいうと、なかなか関わることができないのが水の課題だと思う。2050 年に向けて水環境を劇的に変えていけるというのであればすごく良くなるだろうという気がしている。これが 2050 年に向けてのポイントになっていけば、千代田区ならではの生物多様性の目標になるだろう。それに区民が関わっていければ、区民のシビックプライドになりうる材料だと思う。千代田区のオリジナルとして展開していってもよいのではないか。江戸時代は、水運を発展してきたということもあると思うが、2030 年に向けて、機能的な水の再生、水運の再生をテーマにしていくということも一つあるだろう。

＜亀山先生＞
・水はすごく大きな環境の要素である。水質の問題、それから千代田区は比較的水面があって、景観的に大事な要素になっている、生きものも利用しているので、水に関係することをしっかり描いていただくとよい。

＜印出井委員＞
・2050 年将来像を一言でいうかどうかという議論もあるので、説明で水を追記するということを検討したい。千代田区の水面の面積は日比谷公園 4 個分ぐらいになる。東京都では玉川上水を活用してきれいな水を外濠に導水する取組みもある。工夫させていただきたい。

＜須田委員＞
・水の話で、生物多様性の観点から、東京都のレッドリストの上位にある、ホザキノフサモやヒシの最大の群落があるのは内濠であり、そのような水域の重要性も千代田区の特徴である。
・「2030 年目標」と「2050 年将来像」の記載の順番について、2050 年将来像である長期が先に書かれ、次に 2030 年目標である近い将来が書かれているが、生物多様性に関しては上から落とし込んでいって実現するものではなく、下から積み上げていく、ボトムアップで積み上げて実現するのが普通ではないか。ご検討いただきたい。

＜大井委員＞
・2030 年目標と戦略の対応がわかりにくい。まずは順番が違う。「2030 年目標」の文章では“千代田区に集うすべての主体が生物多様性を意識した行動を選択する”と始まっているが、戦略ではⅡに関連している。
・エコロジカル・フットプリントの見える化を導入することは分かりやすくてよい。非常に危険だと考えるのは、現在 5.24 個分であり、将来的に 1 個以内にすることを心がけます、ということで、現実に試算するのは難しい。計算するのはよいが、どこに着地点を持っていくのがよいのかを試算した方がよい。導入すること自体は賛成。伝え方が難しい、工夫してほしい。
・「Ⅲ－2　千代田区の取組事例がモデルとなり他地域で広く活用され SDGs の達成に貢献しています」（61 ページ）とあるが、千代田区らしいことを、考えてほしい。具体的なものを入れてもらうとわかりやすい。

＜亀山委員＞
・「3.1 2050 年将来像・2030 年目標の達成に向けた戦略の柱と達成すべき状態、行動計画」の示し方を検討していただきたい。
・エコロジカル・フットプリントの目標を 1 個分とすることは難しいというところもあると思う。表現の仕方を検討していただきたい。

＜城委員＞
・「行動計画Ⅱ－1 の①」の事業に挙げられている「生物多様性の普及啓発」（53 ページ）に関連して、三井住友海上火災保険株式会社も子供向けの企画を千代田区の後援をいただいて計画している。広報紙を見て応募した方が 13 名おり、すぐに定員が埋まった。区に後援してもらうと情報の広がり方がすごくよい。この事業のやり方を共有してはどうかと思う。

＜加藤委員＞
・今回の計画においては、まず目標が提示され、それを戦略に落とし込んでいるというところを示した 37 ページの図は分かりやすくてよい。ただし、問題は階層間のつながりが明確ではないことである。目標から戦略へのつながり、戦略から達成すべき状態へのつながり、状態から行動計画へのつながりがわかりやすく示されているとよい。状態目標を示している点は良いが、目標を客観的に評価できる、できれば数値的評価が行えるような指標を考えてほしい。
・戦略Ⅰには 2 つの目標があって、1 は生態系ネットワークの形成強化に直接つながっているが、2 は生態系ネットワークの形成強化というよりは、人のネットワークとしてとらえられるものではないか。その場合、本当に戦略Ⅰにおける目標でよいのか。戦略Ⅱの目標ではないのか、あるいは情報を活用というところで、戦略Ⅲに位置づけたほうがよいのではないか、ということを考えたほうがよい。

＜亀山委員＞
・数値目標は第 4 章の推進体制、進行管理を考えるときに必要になってくることであるので、なるべく進行管理しやすい目標であることが大事。

＜須田委員＞
・52 ページに将来の生態系ネットワークの姿、景観軸が示されているが、生態系ネットワークに違和感がある。生態系は可塑的に変化していく。生態系ネットワークを繋げたからと言って、均一にはならない。移動する生きものも変わってくる。生態系ネットワークを構成する種群も変わる。“エコロジカルネットワーク”の用語が日本に入ってきた時に、“生態系ネット―ワーク”と訳されたのだろうが、生物多様性ネットワーク、生きものネットワーク、千代田緑のネットワーク、千代田いきものネットワークとするとほかの地域と違って特色がでる。地域戦略をなぜつくるか、その土地の特色、地域らしさを出すことが大事。本来は「生きものネットワーク」のような表現がふさわしいのではないか。
・「Ⅲ－1 行動計画④」（60 ページ）について、ウォーカブルまちづくりデザインの積極導入はとてもよいが、現状では極めて生物多様性が低い。ビルの谷間にある、生きものが利用する植物がしつらえられていない。再開発で整備されているようなところはよいだろうが、人の利用が多いところは、生物多様性を人々に感じてもらうふれあいの空間として整備するスタンスで進めていった方が効果的である。

＜亀山委員＞
・“生態系ネットワーク”の意味はかなり歪んできている。元々はエコロジカルなネットワークの話で生態学的に見てネットワークされていることが大事な意味だったのだが、途中から、“生態系ネットワーク”という違和感のある使い方になってきた。そこが少し修正されていったらよいだろう。

＜印出井委員＞
・委員からのご指摘はもっともだと思うが、それを踏まえてどう修正していくか。
「生物多様性地域戦略策定の手引き」（環境省）では“生態系ネットワーク”と示されているので、千代田区としてどういう表現にするのか、ということを宿題として受け止めていきたい。

＜事務局＞
・“生態系ネットワーク”は今回の会議でメインになる話題で、他のページにも多く使われている。一方で、“ネイチャーポジティブ”の意味も東京都が示している意味とは違って、千代田区、都心ならではというところも含められるだろう。新たに言葉を作るのは難しい。生きものネットワークは絵としてはよいのだろうが、説明が難しくなってくるだろう。アイディアをいただければと思う。

＜須田委員＞
・用語や考え方を一番動かしやすいのは、地域戦略だと思う。自治体によって様々であってよいし、「生物多様性地域戦略策定の手引き」（環境省）に従うことは必要かもしれないが、絶対ということではない。環境省の考え方に従って、区はこう考えているということが示されればよい。ここは打って出ても良いのではないか。

＜加藤委員＞
・こういった計画を策定する最大の目的は、区民に現状と区の方針をご理解いただいて、ご協力いただくということと考える。そこにおいて誤解を生じさせないということが一番大事なポイントだと思う。
・生態系ネットワークを考えたときに、街路樹を植えてもあまり生きものが利用するということはない。人間に快適な空間が必ずしも生物多様性が豊かであるということではない。

＜坂口委員＞
・城委員が言われていたような、企業が参加して学校とつないで、といったキーワードは良い姿だろう。学校、子どもたち、そのあたりの取組みをもう少し組み込んでもよいだろう。建て替えが行われている小学校などの場や企業のフィールドを使いながら、子どもたちの取り組めるハードとソフトを一歩踏み込んで書ければよいだろう。

また、学校だけに期待するのではなく、そこに企業が入って、環境教育を企業がやる、地域が関わる、それを区が橋渡しする、といったことを交えながら、やっていけるとよい。2050年将来像、2030年目標に向かって子どもたちが将来像を作っていくことにつながるストーリーが美しい。将来の生物多様性を子供たちが作っていく。そういった意味で教育を充実させる視点をいれるとよい。

＜亀山委員＞
・各主体の主な役割が書かれているが、千代田区を訪れる人というのがない。

＜事務局＞
・観光についても生物多様性の観点も入っているので、「3.2 各主体の主な役割」の「（２）「住み、働き、学ぶ」区民一人ひとりの役割」に“訪れる人”を入れても良いだろう。千代田区に遊びに来る人も非常に多いので、そういった表現をいれてもよいと思うので検討する。

＜亀山先生＞
「（２）「住み、働き、学ぶ」区民一人ひとりの役割」に入れるのではなくて、千代田区が良い場所と思って来る人が多いので独立させてもよいと思う。

＜積田委員＞
・今の意見に関連して、東御苑でもガイドツアーが多くなってきている。たいていは城郭や二の丸、松の廊下などの説明なのだろうが、生物に親しんでもらうことやゴミを持帰る、といった生物多様性の情報も入れてもらうようにしてはどうか。わが家の周りにも街路樹があるが、維持管理の際にどうしても芯止めしてしまう。生物を専門とする立場からすると、伐ってほしくないが、ある一定の高さで切らざるを得ないこともある。その範囲の中での生物多様性だと思う。生物多様性という言葉の意味自体も、以前とははるかに違う。もっと意味が広くなり、生物だけでなくて、我々の生活空間、生物の周りの環境も含んだ言葉になっている。区として定義をして広めていくことをしてはどうか。それが区民の意識の中に根付けば、活動の輪も広がるはずだ。

＜亀山委員＞
・東御苑のガイドは非常に質の高いガイドを養成していこうとしてやってきた。その結果、うまくいっていると思う。千代田区に魅力を感じて来ている人たちに向けたものだから、そういう人たちのことを考えていった方がよい。

＜印出井委員＞
・事務局として生物多様性のプランを作る中で、生物多様性のイメージを持ちながら改定案を作っているが、よく見ると、生物多様性の定義が素案にない。都心における解釈を踏まえて、“生物多様性”を定義しておく必要があるかどうか、意見を伺いたい。

＜亀山委員＞
・できれば、冒頭に簡単に書いていただけるとわかりやすい。

＜事務局＞
・東京都生物多様性地域戦略では、千代田区、都心周辺を含んだ感じにはなかなか読み取れない。東京都のほうで、もし、都心ではこうだ、というヒントがあれば、後ほどでもよいので情報提供していただきたい。千代田区ならではの都心での生物多様性ということを定義することは難しいと感じているので是非ご意見をいただければと思う。

＜青山委員＞
・都の戦略を作る際は、生物多様性という言葉がなかなか伝わりきれていないという感覚があった。つながりあっているということが重要で、希少種がいてなぜ守るのかを説明しないと行動に結びつかないので、具体的な例を出してわかりやすく説明した。ただ、地域によって、その定義が違うかというとそうではないだろう。千代田区のように人が作りあげた緑が多い中でどう考えるかは専門家のお知恵をお借りしたい。

＜印出井委員＞
・千代田区にはほぼ 400 年前から変わっていない緑もある。土地利用としては、皇居を除けば高度利用をしているが、希少種もいる。一定程度の基本的な定義をしたうえで、区としての切り口を示して、それ以降につなげるということだろう。
・「東京都生物多様性地域戦略」はボリュームがあるが、図が多く、字も大きく、見やすいので参考にさせていただきたい。

＜大井委員＞
・「2050 年将来像」に“生物多様性を基盤とした社会課題解決”とあるが、2030 年に千代田区で一番大事なのは、カーボンニュートラルではないか。それはまた別の会議体で議論しているだろうと思い、これまで触れないできたが、今回の資料に出てきたのでどのように棲み分けを考えているか。

＜事務局＞
・脱炭素と生物多様性はリンクしているところが多い。生物多様性の観点で色々な社会問題を解決するということでグリーンインフラ、ヒートアイランド、気候変動、地球温暖化緩和の話にもなる。企業からすれば生物多様性に配慮しないとこれから事業展開も難しい。自然の恵みという言い方をすれば、それを無視しては成り立たない産業もある。同じように取り組んでいかなければならない中身である。別に脱炭素の会議体はあるが、話しているその先の部分は同じところを向いている。ただ、生物や自然由来に特化しているのがこちらで、脱炭素の会議体はエネルギーなどが主体になっている。

＜印出井委員＞
・千代田区においては、区の中で生物多様性を分厚くしても、カーボンニュートラルに量的に貢献できるかは難しい。しかし、区で活動している企業やサプライチェーンを変えていくとその影響力は大きい。都市と地方との連携の中で、都市がどう地方に関わっていくのか、区内でいくら頑張ってもどれだけ二酸化炭素の吸収量を固定できるかはたかが知れている。そこだけを評価するのではなくて、訪れる人に対しての影響も大事な視点である。

＜亀山委員＞
・今の意見については、素案（案）の 2～3 ページ目に書いてある。もう少しわかりやすくすると良い。

＜事務局＞
森川委員から、修正依頼があった。以下が修正依頼内容である。
・「戦略Ｉ－１行動計画⑤」（48 ページ）について、国の役割としてアオコの発生を抑制するための新濠水浄化施設の整備を進めるとあるが、2013 年に浄化施設を設置済みであるので、アオコの大量発生を防止するために濠水浄化施設の運用見直しや改修を進めるとともに新たな浄化施設の整備を検討するとしてはどうか。
・議会からの質問だが、現行の推進プランには、大径木の保存が目標の一つとしてあるが、今回の改定素案には記載していない。国や都の戦略でも一本一本ではなく生物多様性に配慮した緑地の創出といったところに話が行っている。ご意見を伺いたい。

＜加藤委員＞
・確かに、大径木単体で存在している場合には、生物多様性の保全にどのぐらい貢献しているかの疑問はある。エコロジカルネットワークを前提とした計画を立てるのであれば、大きな孤立木があることで鳥の移動の中継点になるケースはあり、市街地や住宅地に残っている大径木でも、エコロジカルネットワークに寄与する効果はある。そういった意味で大径木が単体であることに意味がないというわけではないが、靖国神社のように林が残っている場合は個々の樹木の重要性は相対的に低くなり、こういった場所で１本１本の大径木を把握することにどれだけの意味があるかというと疑問である。

＜亀山委員＞
・大径木を取り出して何かを言う必要はないだろうと考える。当初どういう意図で植えているのか、ということもあることから、今回の生物多様性推進プランの中であえて大径木の保存について焦点をあてて、論じることは必要ないと考える。

＜印出井委員＞
・昨今の街路樹問題や開発問題の中で出てくる議論ということもあるが、大径木が構成要素になっている崖線の緑や、エリアの中に大径木があって保全するということは大事だと考えている。

＜青山委員＞
・都の地域戦略の中でも特段に触れてはいない。もともと樹木保存法ができたときには、修景の一部として設けられたという経緯があるので、生物多様性とは切り離してもよいだろう。

＜事務局＞
・概要版は本文の素案よりも区民の目に触れる機会が多い。先ほどまでのご意見を反映する。

＜加藤委員＞
・一般の方がご覧になるのは概要版だと思うが、その際に生態系ネットワークの形成強化のところでネットワークを示す矢印がどういった意味なのかをきちんと示すことが大事である。

＜事務局＞
本編のネットワークを修正して、概要版も同じように修正する。

（２）千代田区生きものさがし 2023 夏編の結果について

- 事務局より資料４の説明

（質問・ご意見なし）

3. 今後のスケジュール

- 事務局より説明

・今後のスケジュールは以下の通り。

2 月 5 日～パブリックコメント

亀山座長にご相談しながら、素案の修正を進めていきたい。

2024 年 3 月に推進会議を開く。パブコメのご意見と対応について報告する。

4. 閉会

以上